三菱ふそう環境・社会報告書2009について

※本書中の「三菱ふそう」とは、三菱ふそうトラック･バス株式会社を示します

編集方針

三菱ふそうは､トラック･バスという公共性のある製品を世の中に送り出す企業として当社の環境保全の取り組み、社会活動などをステークホルダー(利害関係者)の皆様に情報開示することを目的に､環境･社会報告書2009を発行します。

報告対象期間

本報告書の対象範囲は、基本的に2008年(2008年1月～2008年12月) とします。ただし､各種法律や業界関連で年度をベースとした取り組みについては､2008年度(2008年4月～2009年3月)の実績データを報告します。

報告対象範囲

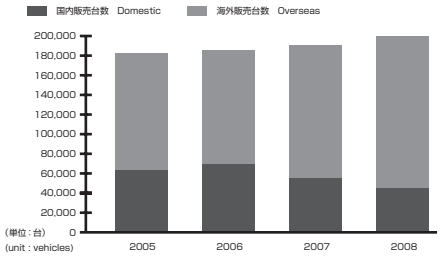
主として三菱ふそうの日本国内における環境活動、社会との関わりを報告します。環境活動については、企業活動全体を通した環境負荷の低減実績やその活動について、トラック・バスの開発･設計、調達、生産、物流、販売、廃棄･リサイクルという流れで報告します。

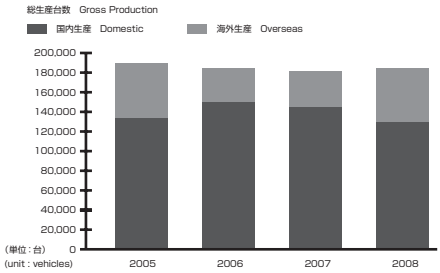
参照ガイドライン

環境省発行の「環境報告ガイドライン (2007 年版)」に基づいて掲載内容の充実を図るとともに、分りやすさの向上に努めています。

企業概要

商号	三菱ふそうトラック･バス株式会社 Mitsubishi Fuso Truck and Bus Corporation
設立	2003 年 (平成 15 年) 1 月 6 日
本社	〒 212-0058 神奈川県川崎市幸区鹿島田 890-12
資本金	200 億円
主な事業	トラック･バス､産業エンジンなどの開発、設計、製造、販売、輸出入､その他取引業
在籍人員	約 15,400 名 (連結 / 2008 年 12 月現在)
売上高	7,570 億円 (2008 年 1 月～ 12 月)
販売台数	国内 42,026 台 / 海外 155,698 台 合計 197,724 台 (2008 年 1 月～12 月)





All for you

私たち三菱ふそうトラック･バス株式会社は､「商品・人・サービス」など企業活動のすべてについて「お客様・社会全般・地球環境」のために何ができるのか、何をなすべきなのかを考えます。
私たちの企業活動を「All for you」という言葉に込め、すべての大切な社会や環境、そして、大切なお客さまのために役立てていけるよう追求しつづけます。

目　次

三菱ふそう　環境･社会報告書２００９について　P.1

トップコミットメント　P.3

三菱ふそうの役割　P.4

環境マネジメント

環境指針　P.5

組織体制／環境サステナビリティプラン　P.6

ISO14001 の取り組み／緊急時対応、環境に関する事故など　P.8

環境会計／環境コミュニケーション　P.9

環境負荷低減への取り組み

自動車の一生と環境負荷　P.10

開発･設計　P.11

調達　P.14

生産　P.15

海外関連会社の取り組み　P.18

物流　P.19

販売　P.21

リサイクル　P.22

社会との関わり

コンプライアンス　P.23

お客様との関わり　P.25

従業員との関わり　P.29

福祉･社会活動　P.31

地域との関わり　P.32

製作所レポート（2008年度実績）　P.33

トップコミットメント

「環境・社会報告書 2009」の発行にあたり

昨年後半からの世界的な経済危機の影響を受け、世界中の自動車需要は大幅に減少しました。特に生産財であるトラック／バスにおいては物流量は未だ低迷したままであり、そのため新車購入需要が回復するには至っておりません。

このような状況の中、三菱ふそうでは、経営トップから社員まで一丸となって費用削減、効率化の諸施策に取り組んでいます。しかしながらその中でも私たちの原点である“All for you”の気持ちは忘れていません。急激な事業改善の中でも常にコンプライアンス遵守の観点を持ち、すべての大切な社会や環境、そして大切なお客様のために役立てる会社であり続けるために、“All for you”を合言葉に企業活動を続けて参ります。

いま地球温暖化防止のために、これまでの京都議定書の枠組みを超えた低炭素社会の実現、CO_2 削減の議論が世界中でなされています。三菱ふそうでは、従来から環境保全を最重要テーマの一つとして、車両の走行燃費改善やハイブリッドトラック／バスの開発、生産活動での CO_2 削減はもちろんのこと、調達や物流での省エネや、エコドライブの普及促進にも取り組んでいます。また、今後さらに高い目標に向けて活動していくために、組織体制の強化も図っていく予定です。加えて車両の生産・販売活動以外にも、次世代を担う子供達の工場見学会や地域社会との交流、様々な福祉活動なども幅広く積極的に推進し、社会に貢献していく所存です。

三菱ふそうは、ダイムラー・トラックグループの一員としてのシナジー効果を得て、これからも環境保全、社会貢献活動に積極的に取り組み、「お客様にとっての No.1 企業」、「最も信頼される企業」を目指します。

皆様の本報告書に対する忌憚ないご意見を頂ければ幸いです。

三菱ふそうトラック・バス（株）
取締役会長
鈴木 孝男

三菱ふそうトラック・バス（株）
代表取締役社長
最高経営責任者（CEO）
アルバート・キルヒマン

三菱ふそうの役割

ダイムラー・トラック部門における三菱ふそう

ダイムラー・トラック部門には3つの強力な車両ブランドがあり、部門全体の販売台数は世界一です。その中核を担うのが欧州市場を中心に活躍するメルセデス・ベンツ、北米市場を中心に活躍するフレイトライナー、そして日本・アジアを中心に活躍する三菱ふそうです。

Mercedes-Benz

欧州および南米、中近東において高性能商用車ブランドとしての存在を不動のものとしている「メルセデス・ベンツ」。その輝かしい歴史を背景に、安全・環境技術において世界の最先端をリードし続けています。

FUSO

1932年にB46型バス「ふそう」を製造してから75年。現在、アジア・中近東をはじめとして世界中に認知されるブランドへと躍進。品質・技術・サービスのすべてにおいて「お客様第一」を目指して、走り続けています。

FREIGHTLINER®

北米において、大中型トラックのリーディングブランドである「フレートライナー」。ダイムラー・トラック部門北米の傘下ブランドとして「ウエスタン・スター」「トーマス・ビルド・バス」「フレートライナー・カスタム・シャシ」「デトロイト・ディーゼル」とともに、高品質の製品・サービスを提供しています。

三菱ふそうの役割

三菱ふそうはアジア地域を担う一員として、また商品面では小型トラックの開発・生産拠点として、さらに技術面ではハイブリッド技術でプレゼンスを発揮し、部門内でこれからも重要な役割を担っています。

アジア戦略の拠点

ダイムラー・トラック部門の中で、アジア諸国のビジネスを担う一員として、重要な役割を果たします。

小型トラックの開発・生産拠点

「頑丈で信頼性がある」という評価に甘んじることなく、これからも確かな製品を提供していきます。

ハイブリッド電気自動車（HEV）技術のコンピテンスセンター

省燃費、環境性能、そしてイージードライブを可能にする三菱ふそう独自の最先端技術、HEV システムの開発拠点です。

グローバルハイブリッドセンター稼動開始

2008年8月、ダイムラー・トラック部門は、ハイブリッド開発拠点として三菱ふそうに「グローバルハイブリッドセンター」を設立しました。これまでメルセデス・ベンツ、ダイムラー・トラック・ノースアメリカ、そして三菱ふそうの各社に分散していたハイブリッド開発部門を一箇所に統合することで、情報の一元化・共有化を図り、ハイブリッド開発業務のシナジー効果を生み出していきます。

GLOBAL HYBRID CENTER